

○計画期間:令和3年4月～令和8年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和3年3月に第3期となる基本計画の認定を受け、基本テーマ「世界に誇る伝統文化 居心地のよいまち ぐらしき」の実現に向けた3つの基本的な方針（誇り・持続・交流）のもと、各事業を実施している。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を経て、全国的に観光需要が回復した年となった。特に、外国人観光客の個人旅行解禁（令和4年10月）や岡山桃太郎空港の国際線運航再開（令和5年3月）以降は訪日客が大きく増加し、岡山県内に宿泊した外国人の数が前年の5.5倍を超えるなど、新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に戻りつつある。県内最大の観光地（倉敷美観地区）を区域内に持つ本市中心市街地においても、G7倉敷労働雇用大臣会合（令和5年4月）により国際的な知名度が向上したことも加わり、連日多くの訪日客でにぎわっている。「中心市街地インバウンド強化事業」により養成した観光ガイドが、外国人への観光案内を行っているが、令和5年度の実績は令和元年度の122%と、新型コロナウイルス感染症拡大前を上回る結果となった。

また、国指定重要文化財・井上家住宅が10年以上に及ぶ保存修理工事を終えて一般公開を開始（令和5年3月）し、国登録有形文化財・児島虎次郎記念館が多目的スペース「愛美赤煉瓦館」としてリニューアル（令和5年7月）したほか、「倉敷物語館周辺再生整備事業（市所有広場）」により、市が所有する広場や建物を利用するイベントの開催を支援するなど、既存ストックを活用したまちの魅力向上も図られた。

一方で、目標指標にも掲げている「町家・古民家再生活用件数」が計画期間を通じて低調なまま推移している。活用に向けた相談は増加しており、潜在的なニーズはあると考えられるが、個人が行う町家改修など、小規模な事業には現在も慎重な姿勢が見られる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

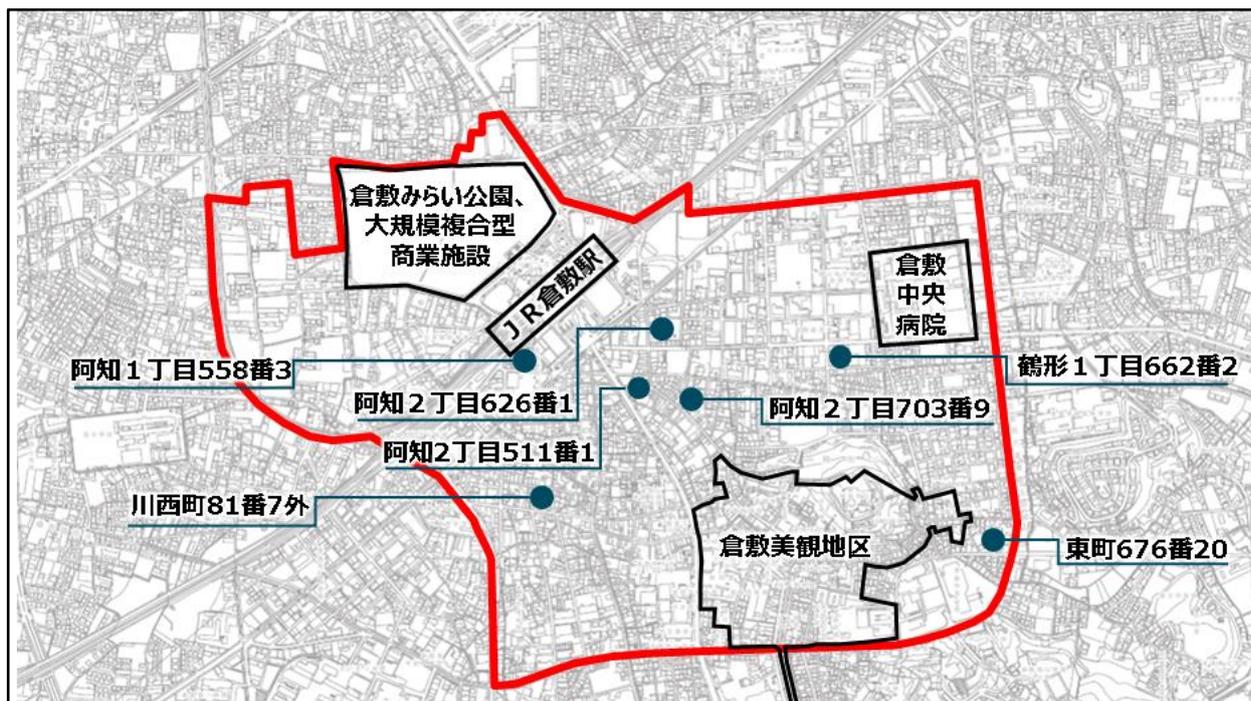
(1) 居住人口

(単位：人) (基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
人口	7,575	7,677	7,637	7,704	-	-
人口増減数		102	▲40	67	-	-
自然増減数		▲26	▲46	▲55	-	-
社会増減数		129	▲52	89	-	-
その他増減数		▲1	58	33	-	-
転入者数		991	692	756	-	-

資料：住民基本台帳より作成

(2)地価



(単位：円/㎡)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
中心市街地内 調査地点平均	166,743	168,357 (↑)	173,429 (↑)	179,143 (↑)	-	-
阿知1丁目 558番3	139,000	140,000 (↑)	144,000 (↑)	148,000 (↑)	-	-
阿知2丁目 511番1	370,000	375,000 (↑)	387,000 (↑)	402,000 (↑)	-	-
阿知2丁目 626番1	190,000	192,000 (↑)	197,000 (↑)	203,000 (↑)	-	-
阿知2丁目 703番9	101,000	101,000 (→)	103,000 (↑)	106,000 (↑)	-	-
鶴形1丁目 662番2	168,000	170,000 (↑)	178,000 (↑)	185,000 (↑)	-	-
川西町 81番7外	98,200	98,500 (↑)	101,000 (↑)	104,000 (↑)	-	-
東町 676番20	101,000	102,000 (↑)	104,000 (↑)	106,000 (↑)	-	-

資料：国土交通省「地価公示」、岡山県「地価調査」より作成

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、イベント等のソフト事業が前年度以上に活発に行われるようになった。倉敷駅北側の倉敷みらい公園、南側のあちてらす倉敷オープンスペースでは、飲食・物販イベントが頻繁に開催され、来場者が食事や買い物を楽しんでいる。倉敷駅前の商店街では、規模や内容を制限しながら開催してきた「高梁川流域『倉敷三斎市』」が、令和5年8月より通常運用を再開。あちてらす倉敷オープンスペースや天満屋倉敷店では、三斎市にあわせてイベントを開催するなど、事業者同士の連携による相乗効果も生まれている。また、倉敷中央通りでは、「倉敷天領夏祭り」を4年ぶりに開催し、夏の風物詩を取り戻した。

ハード面では、「空飛ぶクルマ」を常設する国内初の展示場や、新たな広場（阿知スペース広場）など、民間事業者主体の施設整備が進んだ。これらハード・ソフト両面からの取組が、にぎわい創出や回遊促進に繋がっていると考えられる。

一方で、まちのにぎわいを測定する指標となる「歩行者・自転車通行量」について、令和5年度の調査手法を変更したことにより、取組の効果を定量的に評価できなかったことは残念である。計画期間が満了する令和7年度までは、過去と比較可能なデータが得られる手法で調査をしていただきたい。また、「倉敷物語館周辺再生整備事業（市所有広場）」が進捗し、イベント会場として市の広場が活用されるようになったことで、新たなにぎわいの拠点となっているが、休憩スペースやトイレなど、中心市街地に不足する機能を補い、拠点としての魅力を高めていくことも必要と考える。さらに、3期に亘る中心市街地活性化への取組により、中心市街地全体の魅力が増しているが、来街者にはその一部分しか伝わっていないことも課題である。特に、倉敷美観地区では、倉敷川沿いに多くの観光客が集中する一方、歴史的な町家や魅力的な店舗が集まる本町、東町にも人が流れるようになったが、まだ十分とは言えない。にぎわいを中心市街地全体に波及させるためにも、情報発信を強化していく必要がある。

引き続き官民一体となって中心市街地活性化に取り組むとともに、更なる現状分析と事業の見直しを推進していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
歴史的・伝統的資源を活用したまちの魅力向上	町家・古民家再生活用件数	39 件 (H27～R1累計)	45 件 (R3～R7累計)	6 件 (R3～R5累計)	C	2	2
便利で快適な営みのあるまちなかの形成	居住人口	7,507 人 (R2)	8,000 人 (R7)	7,704 人 (R5)	B	②	②
人が集い、交流するまちなかの形成	歩行者・自転車通行量	57,440 人/日 (R2)	124,000 人/日 (R7)	89,359 人/日 (R4)	B	②	②
	来街者の平均滞留時間	98 分 (R1)	111 分 (R6)	98 分 (R4)	B	①	②

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「町家・古民家再生活用件数」については、「(仮称) 空き家等職住一体活用事業 (中心市街地南西部)」や「倉敷町家創生塾」など、民間事業者主体の取組により町家・古民家の再生活用が進むことを見込んでいたが、個人が行う町家改修など、小規模な事業には現在も慎重な姿勢が見られ、予定どおり進捗しなかった。活用に向けた相談は増加しているものの、このままでは目標達成が見込まれない。そこで、「町家・古民家再生活用等支援事業」を大きく見直し、令和 6 年度から運用を開始した。見直し後の制度を周知し、目標の達成を目指す。

「居住人口」については、新たな集合住宅が完成した稲荷町、「倉敷駅周辺第二土地区画整理事業」の進捗に伴う住宅整備が進む石見町でそれぞれ 50 人以上の増加があり、中心市街地全体では 67 人増加した。土地区画整理事業が進む石見町及び日吉町は今後も人口増加に期待できるが、このままの増加率では、計画期間満了までの目標達成は困難と考えられる。制度を大きく見直した「町家・古民家再生活用等支援事業」を周知し、既存建物の活用を促進することで、人口の社会増加とエリアの魅力向上を図り、目標の達成を目指す。

「歩行者・自転車通行量」については、事業が概ね予定どおり進捗し、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後は、多くの観光客が中心市街地を訪れていることから、前回よりも改善していると思われるが、令和 5 年度の調査を観測調査でなくビッグデー

タ分析で行った結果、過去と比較可能なデータが得られなかったため、前回の見通しを据え置く。なお、残る計画期間は観測調査での計測を行う。

「来街者の平均滞留時間」については、「阿知3丁目東地区市街地再開発事業」が令和3年度に完了し、倉敷中央通り西側に滞留・交流の拠点となる空間が形成されたことで、前回よりも改善することを見込んでいたが、基準値と同水準まで減少する結果となった。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を経て、滞留時間の延伸に繋がるソフト事業が多数展開されたため、数値が改善する見込みであるが、最新値が基準値まで減少した現時点においては、目標達成が見込まれない。夜間イベントの充実やイベント同士の連携などにより滞留時間の更なる延伸を図り、目標の達成を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「町家・古民家再生活用件数」、「居住人口」、「歩行者・自転車通行量」：
前回から変更はない

「来街者の平均滞留時間」：

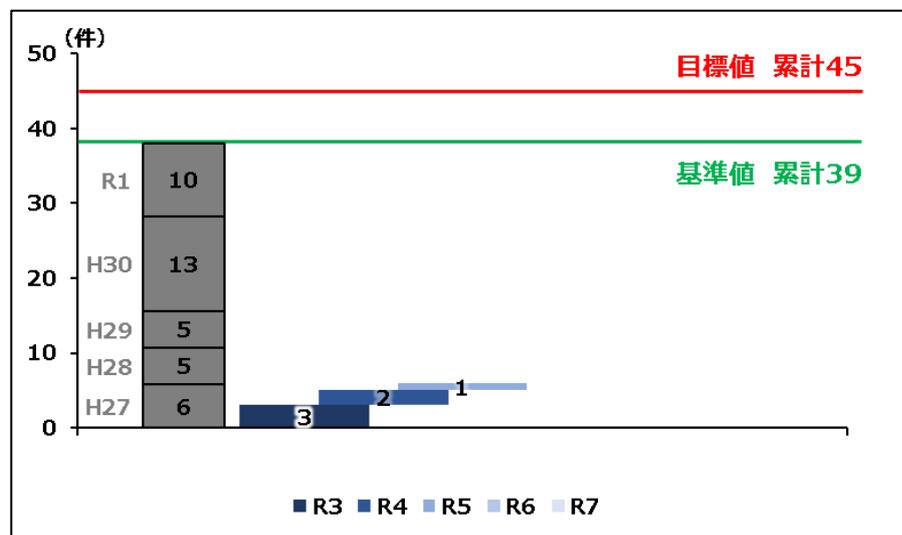
目標達成見通しについては、令和4年度フォローアップ時点では数値が増加傾向にあり、目標達成に寄与する複数の事業が中止期間を経て再開するなど、事業の進捗状況も順調であったため、目標達成が見込まれる(①)と考えていたが、その後、新型コロナウイルス感染症と共存する生活へと転換していくなかで、店舗や観光地で過ごす時間を短縮するなど、来街者の行動等が感染症対策を意識したものへと変化し、平均滞留時間が減少した。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を経て、滞留時間の延伸に繋がるソフト事業が多数展開されたため、数値が改善する見込みであるが、基準値まで減少した現時点においては、目標達成が見込まれない(②)と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「町家・古民家再生活用件数」

※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 55～P. 57 参照

●調査結果と分析



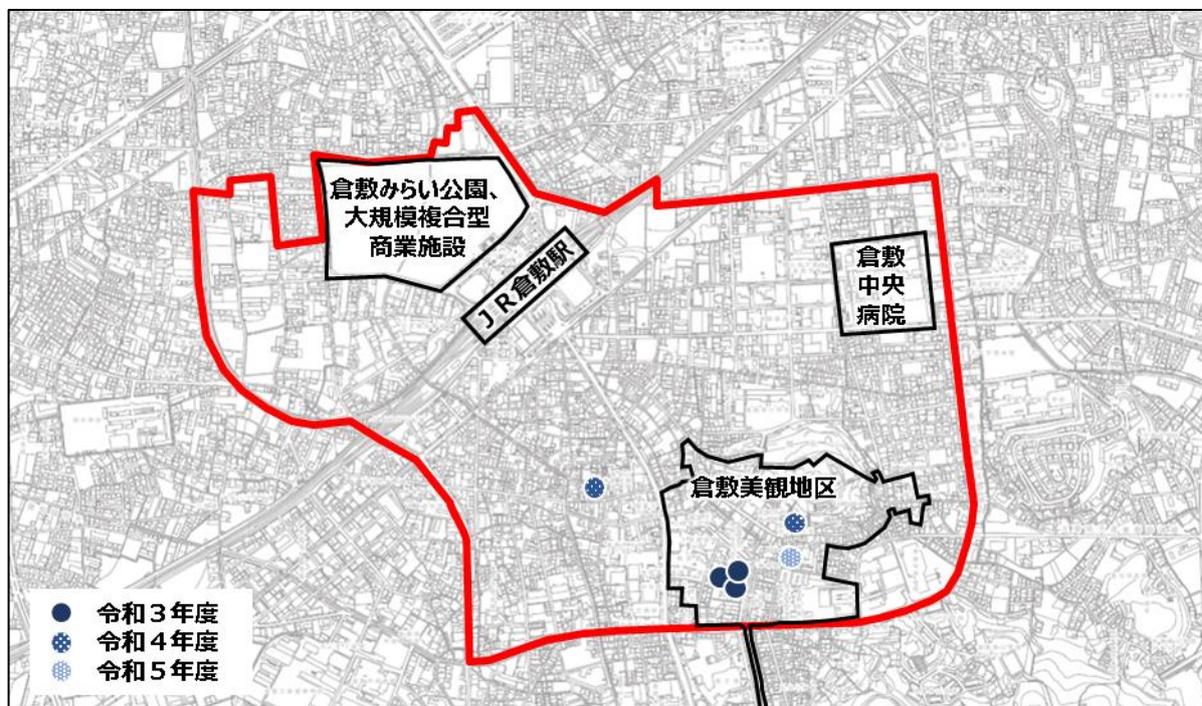
年	(件)
H27 ～R1	累計 39 (基準年値)
R3～ R5	累計 6
R3～ R7	累計 45 (目標値)

※調査方法：「倉敷市まちづくり基金活用事業審査会」において採択されたハード事業のうち、中心市街地域内で実施する事業の数を集計する

※調査月：4月～翌3月

※調査主体：倉敷市

※調査対象：中心市街地域内で再生活用される町家・古民家



〈分析内容〉

町家・古民家再生活用件数の増加に向けた各事業については、主に民間事業者主体の取組を主要事業に設定しているが、現在も事業実施に慎重な姿勢が見られ、予定どおり進捗しなかった。

町家・古民家再生活用に関する相談は、倉敷美観地区内の建物を中心に年間 10 件程度あり、潜在的な需要は有していると考えられるが、実現に至ったのは令和 3 年度に 3 件、令和 4 年度に 2 件、令和 5 年度に 1 件であった。これまでの実績を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい令和 3 年度には、集客の拠点となる複合施設が整備され、令和 4 年度以降は地域住民の拠り所となる小規模な施設整備も見られるようになった。再生活用された建物は、倉敷美観地区内や旧街道沿いなど歴史的建造物が多く残るエリアに位置しており、歴史的な町並みの保全に繋がっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿知 3 丁目東地区市街地再開発事業（倉敷市阿知 3 丁目東地区市街地再開発組合、倉敷市）

事業実施期間	平成 14 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により住宅、店舗、宿泊施設等を一体的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	① 都市構造再編集集中支援事業(国土交通省)(令和 3 年度) ② スマートウェルネス住宅等推進事業(国土交通省)(令和 3 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2 件増加 最新値：0 件増加 事業は当初の計画どおりに進捗し、令和 3 年 10 月には複合施設の供用を開始した。施設が立地する阿知 3 丁目エリア周辺で町家・古民家の再生活用が進むと見込んでいたが、現時点で実績はなく、事業目標値に達していない。
事業の今後について	複合施設内の交流施設やオープンスペースを活用したソフト事業を展開して阿知 3 丁目エリア周辺の魅力向上を図り、町家・古民家の再生活用を促進する。

②. (仮称)空き家等職住一体活用事業(中心市街地南西部)(民間事業者、倉敷市)

事業実施期間	令和 3 年度～令和 7 年度【実施中】
事業概要	中心市街地南西部を中心に、空き家等を活用して職住を一体とする住宅や日常生活に必要な施設等を段階的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2 件増加 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた空き家の活用が中止になるなど、当初の計画から遅れが発生している。事業対象エリアである中心市街地南西部での町家・古民家再生活用が 1 件行われたが、当該事業による効果が直接発現したものではない。
事業の今後について	支援制度の周知など情報発信を強化し、町家・古民家の再生活用を促進する。

③. 町家・古民家で紡ぐ魅力拠点創出事業（特定目的会社、民間事業者、倉敷市）

事業実施期間	平成27年度～令和7年度【実施中】
事業概要	空き家・空き店舗となっている町家・古民家を再生整備し、町並みの連続性を守るとともに、持続力のある町家・古民家の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：1件増加 当該事業及び「④. 倉敷町家創生塾」により技術やノウハウを継承しつつ町家・古民家の再生を進めることで、中心市街地区域内の町家・古民家再生活用件数が1件増加することを見込んでいるが、現時点で当該事業による実績はなく、事業目標値に達していない。
事業の今後について	技術を学ぶワークショップの開催案内や支援制度の周知など情報発信を強化し、町家・古民家の再生活用を促進する。

④. 倉敷町家創生塾（NPO法人倉敷町家トラスト）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】 [認定基本計画：令和3年度～令和5年度]
事業概要	町家・古民家の再生に携わる人材を発掘・育成する研修を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：1件増加 当該事業及び「③. 町家・古民家で紡ぐ魅力拠点創出事業」により技術やノウハウを継承しつつ町家・古民家の再生を進めることで、中心市街地区域内の町家・古民家再生活用件数が1件増加することを見込んでいるが、現時点で当該事業による実績はなく、事業目標値に達していない。
事業の今後について	事業を継続し、町家・古民家の再生に関する技術やノウハウの継承を図る。

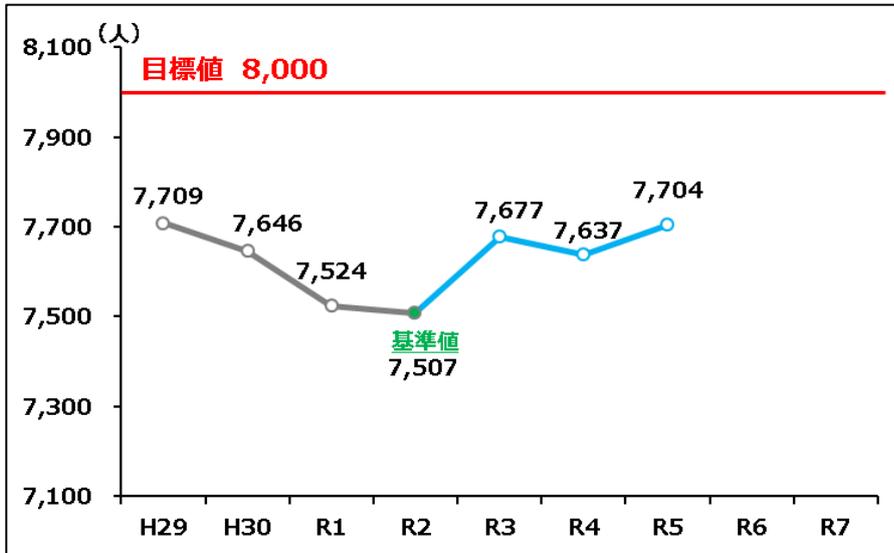
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成には残り2年間で39件の実績が必要となり、このままでは目標達成が見込めない。そこで、「町家・古民家再生活用等支援事業」の補助対象者を拡大し、補助金額の加算措置を新設するなど、制度を大きく見直し、令和6年度から運用を開始した。「くらしき美観地区事業者振興会」（令和4年度設立）や「くらしきになるエリアプラットフォーム」（令和5年度設立）など、中心市街地を活動拠点とする新たな団体等へ支援制度を周知し、目標の達成を目指す。

(2) 「居住人口」

※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 57～P. 59 参照

●調査結果と分析



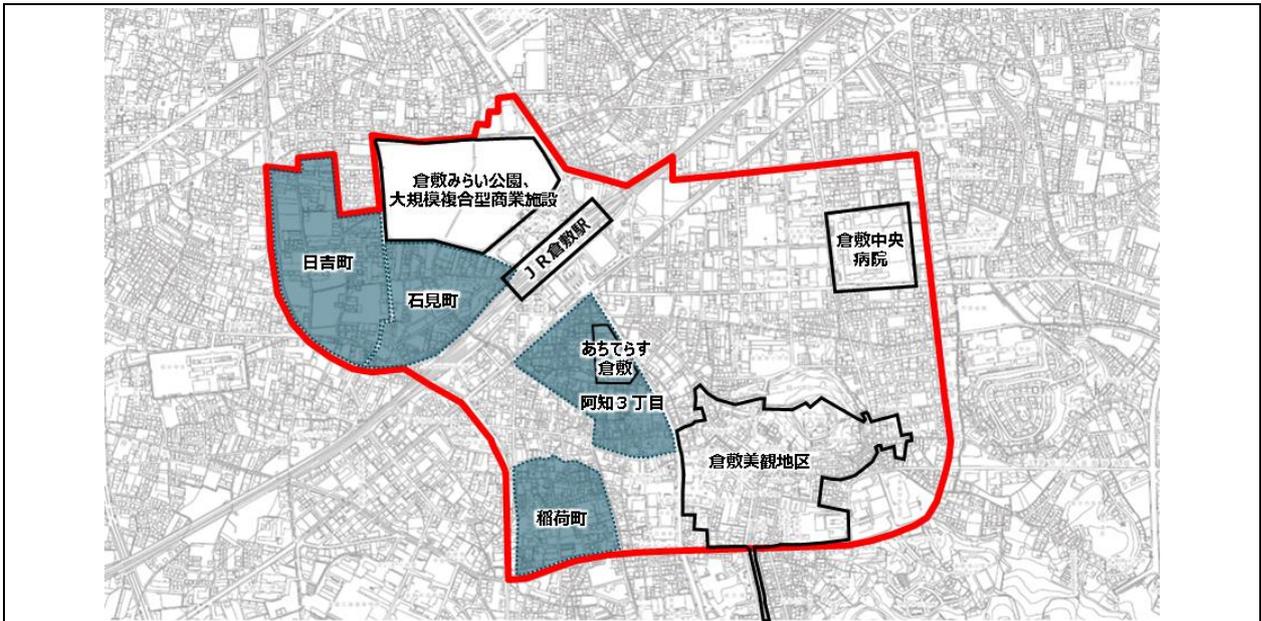
年	(人)
R2	7,507 (基準年値)
R3	7,677
R4	7,637
R5	7,704
R7	8,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳より中心市街地区域内に居住する人の数を集計する

※調査月：12月（基準年のみ9月）

※調査主体：倉敷市

※調査対象：中心市街地区域内居住者



(単位：人)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)
阿知3丁目	380	742	639	657
石見町	267	279	320	371
日吉町	597	480	432	428
稲荷町	1,038	1,011	1,116	1,168

〈分析内容〉

居住人口の増加に向けた事業については、既存建物の活用を促進する事業の実施に慎重な姿勢が見られ、「町家・古民家再生活用等支援事業」、「(仮称)空き家等職住一体活用事業(中心市街地南西部)」が予定どおり進捗しなかった。

「阿知3丁目東地区市街地再開発事業」の効果は順調に発現しており、事業目標値の達成も見込まれる。中心市街地南西部に位置する稲荷町では、新たな集合住宅が完成し、人口が52人増加した。また、JR倉敷駅北側で実施中の「倉敷駅周辺第二土地区画整理事業」の対象区域である石見町では、使用収益開始後の宅地で住宅整備が進み、人口が51人増加した。同じ対象区域の日吉町では4人減少しているが、事業に伴う一時的な減少であり、今後事業が進捗していくなかで石見町と同様に増加すると考えられる。中心市街地全体では67人の増加となり、土地区画整理事業が進む石見町及び日吉町は今後も人口増加に期待できる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿知3丁目東地区市街地再開発事業【再掲】(倉敷市阿知3丁目東地区市街地再開発組合、倉敷市)

事業実施期間	平成14年度～令和3年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により住宅、店舗、宿泊施設等を一体的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	① 都市構造再編集集中支援事業(国土交通省)(令和3年度) ② スマートウェルネス住宅等推進事業(国土交通省)(令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：329人増加 最新値：277人増加 事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年10月には複合施設の供用を開始した。住宅整備により施設が立地する阿知3丁目の人口が大きく増加し、令和4年度に一度減少したものの、令和5年度には再び増加に転じ、現在は事業目標値に対して約84%の状況にある。令和5年度と同程度の増加が今後も続けば、事業目標値を達成する見込みである。
事業の今後について	複合施設を活用したソフト事業を展開することで阿知3丁目エリア周辺のさらなる魅力向上を図り、居住人口の増加を目指す。

②. 町家・古民家再生活用等支援事業(倉敷市)

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	町家・古民家を再生活用するための整備費用や、周辺エリアの活性化を図るまちづくり活動に要する費用の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和3年4月～令和8年3月)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：33人増加 当該事業により職住を一体とする住宅の整備が進み、中心市街地の

	人口が33人増加することを見込んでいるが、現時点で居住を伴う再生活用の実績がなく、事業による効果が発現していない。
事業の今後について	制度を大きく見直し、令和6年度から運用を開始した。事業を周知し、町家・古民家の再生活用を促進することで居住人口の増加を目指す。

③. (仮称) 空き家等職住一体活用事業(中心市街地南西部)【再掲】(民間事業者、倉敷市)

事業実施期間	令和3年度～令和7年度【実施中】
事業概要	中心市街地南西部を中心に、空き家等を活用して職住を一体とする住宅や日常生活に必要な施設等を段階的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：19人増加 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた空き家の活用が中止になるなど、当初の計画から遅れが発生している。空き家等を活用した住宅整備により中心市街地の人口が19人増加することを見込んでいるが、現時点で活用実績がなく、事業による効果が発現していない。
事業の今後について	支援制度の周知など情報発信を強化し、空き家等の活用を促進することで居住人口の増加を目指す。

④. 倉敷駅周辺第二土地区画整理事業(倉敷市)

事業実施期間	平成14年度～令和6年度【実施中】
事業概要	土地区画整理事業により、道路、公園等の整備・改善と宅地の利用増進を一体的に進める。
国の支援措置名及び支援期間	① 社会資本整備総合交付金(道路事業(区画))(国土交通省) (令和3年度～令和6年度) ② 社会資本整備総合交付金(都市再生区画整理事業)(国土交通省) (令和3年度～令和6年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：618人増加 事業の進行に伴い対象区域内の人口が一時的に減少しているが、完了後には住宅整備が進み、618人増加すると見込んでいる。
事業の今後について	引き続き事業を推進し、便利で快適な居住環境を整備することで居住人口の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

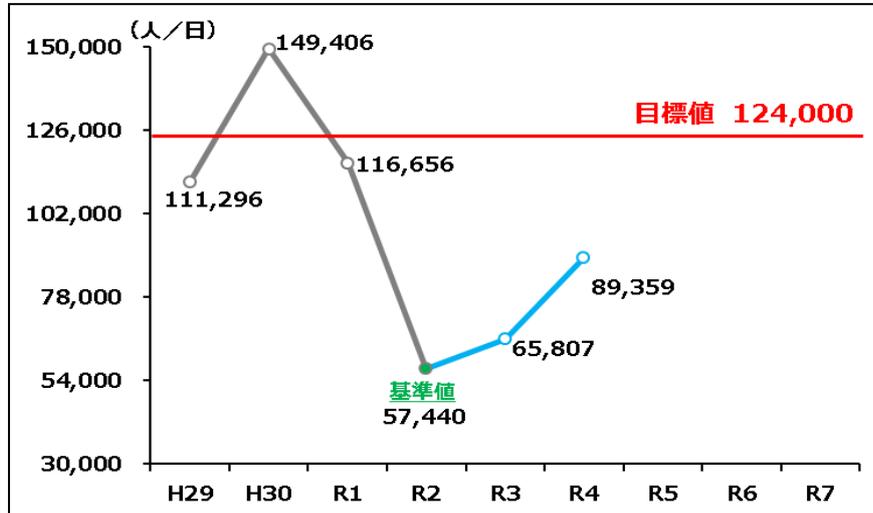
人口は増加傾向にあるものの、このままの増加率では、計画期間満了までの目標達成は困難と考えられる。引き続き「倉敷駅周辺第二土地区画整理事業」を推進し、住宅整備による人口の社会増加を図る。また、補助対象者の拡大、補助金額の加算措置新設など、制度を大きく見直した「町家・古民家再生活用等支援事業」を周知し、既存建物の活用を

促進することで、人口の社会増加とエリアの魅力向上を図り、目標の達成を目指す。

(3) 「歩行者・自転車通行量」

※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 59～P. 61 参照

●調査結果と分析



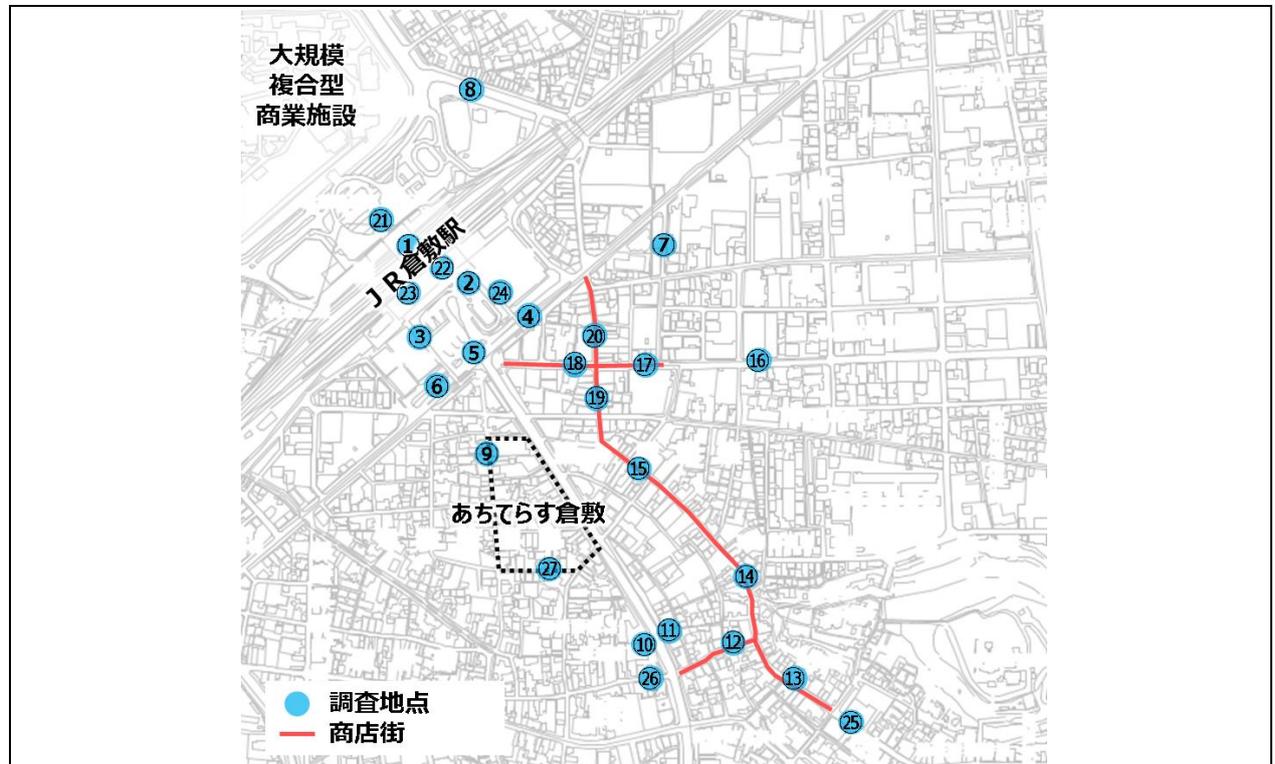
年	(人/日)
R2	57,440 (基準年値)
R3	65,807
R4	89,359
R5	-
R7	124,000 (目標値)

※調査方法：休日1日（10時～18時）の通行量を観測調査により計測する

※調査月：7～8月（平成30年度は11月に調査）

※調査主体：倉敷市

※調査対象：調査地点（27箇所）を通過した小学生以上の歩行者及び自転車



(単位：人)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)
地点1	3,561	3,734	5,739	-
地点2	1,472	1,807	1,003	-
地点3	401	650	902	-
地点4	3,213	3,758	4,363	-
地点5	628	911	1,438	-
地点6	1,522	1,878	2,445	-
地点7	893	859	905	-
地点8	1,625	1,327	1,469	-
地点9	584	757	965	-
地点10	769	918	2,014	-
地点11	1,602	2,016	2,607	-
地点12	1,373	1,718	2,737	-
地点13	2,777	3,681	5,723	-
地点14	2,505	3,258	4,920	-
地点15	2,309	3,015	3,889	-
地点16	969	991	989	-
地点17	1,439	1,683	1,902	-
地点18	2,468	3,053	4,250	-
地点19	2,268	2,871	3,700	-
地点20	843	1,005	1,289	-
地点21	8,645	8,961	11,288	-
地点22	2,888	5,012	4,199	-
地点23	7,480	5,660	11,199	-
地点24	1,898	2,630	3,001	-
地点25	2,849	3,371	5,662	-
地点26	312	115	463	-
地点27	147	168	298	-
合計	57,440	65,807	89,359	-

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗したが、令和5年度の調査を観測調査でなくビッグデータ分析で行った結果、過去と比較可能なデータが得られなかった。

数値による比較はできなかったが、「(仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業」により、あちてらす倉敷オープンスペースを活用したマルシェ等のイベントが定期的開催され、買い物客等で周辺(地点9、27)がにぎわう様子が定着しつつある。また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、訪日客をはじめとした観光客により倉敷

美観地区が活気にあふれ、JR倉敷駅、商店街、倉敷美観地区を結ぶ動線（地点12～15、18、19、25）の人通りが増している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿知3丁目東地区市街地再開発事業【再掲】（倉敷市阿知3丁目東地区市街地再開発組合、倉敷市）

事業実施期間	平成14年度～令和3年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により住宅、店舗、宿泊施設等を一体的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	① 都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和3年度) ② スマートウェルネス住宅等推進事業(国土交通省)(令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：新型コロナウイルス感染症拡大前より3,900人増加 最新値：－ 事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年10月には複合施設の供用を開始した。複合施設周辺は住民や買い物客等による日常的なにぎわいが定着し、中央通り西側の回遊動線が強化されている。
事業の今後について	「②. (仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業」など複合施設を活用する事業を推進し、当該施設が立地している阿知3丁目エリア周辺ににぎわいを創出するとともに、倉敷駅北側の商業施設と連携して事業に取り組むことで南北間の回遊促進を図り、通行量の増加を目指す。

②. (仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業（倉敷市、民間事業者）

事業実施期間	令和3年度～令和7年度【実施中】
事業概要	複合施設内の交流施設やオープンスペースを活用して滞留・交流の場を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：新型コロナウイルス感染症拡大前より1,800人増加 最新値：－ 事業は当初の計画どおりに進捗し、各スペースを活用した展示や集客・回遊イベントに官民連携して取り組んでいる。商店街のイベントと連携して相互送客を図る取組も見られ、倉敷中央通り東西間の回遊性が向上している。
事業の今後について	継続して事業を展開することで阿知3丁目エリア周辺のにぎわいを定着させ、倉敷駅北側の商業施設と連携して事業に取り組むことで南北間の回遊促進を図り、通行量の増加を目指す。

③. 倉敷物語館周辺再生整備事業（市所有広場）（倉敷市、阿知二丁目広場活用検討ワーキンググループ、民間事業者）

事業実施期間	令和3年度～令和7年度【実施中】
事業概要	市が保有する2つの広場（阿知二丁目広場、阿知まち広場）を活用し、倉敷物語館周辺の魅力向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和6年度) [認定基本計画：都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和3年度)]
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：新型コロナウイルス感染症拡大前より 1,800 人増加 最新値：－ 事業は当初の計画から遅れが発生したものの、令和5年度には各広場を会場にしたイベントを複数回開催した。倉敷美観地区と商店街の結節点という立地から、イベント時は地域住民や観光客など多様な人が集い、交流する空間が形成されている。
事業の今後について	広場を活用する取組を継続し、倉敷美観地区及び周辺地域の回遊促進を図り、通行量の増加を目指す。

④. まちづくりセンター跡地活用事業（倉敷市、まちづくりセンター跡地周辺街区活性化検討ワーキンググループ、民間事業者）

事業実施期間	令和3年度～令和6年度【実施中】 [認定基本計画：令和3年度～令和5年度]
事業概要	商店街の中心に位置する「まちづくりセンター」跡地を活用し、にぎわい・回遊の拠点となる空間を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：新型コロナウイルス感染症拡大前より 1,800 人増加 最新値：－ 当該事業は活用方針の検討に想定以上の時間を要しているため、当初の計画から遅れが発生しているが、イベント会場として暫定的に活用している。商店街の中央に位置することから、イベント時には本部など中心的な役割を担う場所として活用されることが多く、にぎわいの起点となっている。
事業の今後について	関係部署等と情報交換を行い、事業対象地だけでなく駅前エリア全体の将来像を見据えた活用方針を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、通行量の増加に繋がるソフト事業が多数展開されているため、目標値に近づくと思われるが、現時点では目標達成が見込まれない。ここ数年で人々の意識や行動が変化しているため、新しい生活様式等から生まれる需要に合わせて事業の見直しや追加を行い、中心市街地全体ににぎわいを波及さ

来街者区分		令和元年度 (計画前年度)		令和2年度 (1年目)		令和3年度 (2年目)	
		割合	平均滞留時間	割合	平均滞留時間	割合	平均滞留時間
市内居住者	日帰り	33.4%	82分	44.7%	83分	47.5%	81分
	宿泊	1.4%	108分	2.2%	168分	2.4%	187分
市外居住者	日帰り	41.8%	95分	39.2%	100分	36.0%	101分
	宿泊	23.4%	121分	13.9%	146分	14.1%	156分
来街者全体		100%	98分	100%	100分	100%	102分
来街者区分		令和4年度 (3年目)		令和5年度 (4年目)		令和6年度 (5年目)	
		割合	平均滞留時間	割合	平均滞留時間	割合	平均滞留時間
市内居住者	日帰り	18.8%	78分	-	-	-	-
	宿泊	0.7%	93分	-	-	-	-
市外居住者	日帰り	63.1%	92分	-	-	-	-
	宿泊	17.4%	143分	-	-	-	-
来街者全体		100%	98分	-	-	-	-

〈分析内容〉

来街者の滞留時間増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

「阿知3丁目東地区市街地再開発事業」が令和3年度に完了し、複合施設の供用を開始したことにより、倉敷中央通り西側に滞留の拠点となる空間が形成された。令和4年度以降は「(仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業」を展開し、複合施設内の交流施設やオープンスペースを活用することで滞留・交流の促進を図っている。

平均滞留時間はこれまで緩やかな増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症と共存する生活へと転換していくなかで、店舗や観光地で過ごす時間を短縮するなど、来街者の行動等が感染症対策を意識したものへと変化し、令和4年度は基準値(令和元年度)と同水準まで減少する結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿知3丁目東地区市街地再開発事業【再掲】(倉敷市阿知3丁目東地区市街地再開発組合、倉敷市)

事業実施期間	平成14年度～令和3年度【済】
事業概要	市街地再開発事業により住宅、店舗、宿泊施設等を一体的に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	① 都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和3年度) ② スマートウェルネス住宅等推進事業(国土交通省)(令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：5.82分増加 最新値：増減なし

	事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年10月には複合施設の供用を開始した。複合施設が立ち寄り先に加わることで、来街者の平均滞在時間が5.82分増加することを見込んでいるが、現時点では事業目標値に達していない。
事業の今後について	「②. (仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業」など複合施設を活用する事業を展開し、当該施設が立地している阿知3丁目エリア周辺ににぎわいを創出するとともに、倉敷駅北側の商業施設と連携して事業に取り組むことで南北間の回遊促進を図り、滞在時間の延伸を目指す。

②. (仮称)阿知3丁目東地区にぎわい創出事業【再掲】(倉敷市、民間事業者)

事業実施期間	令和3年度～令和7年度【実施中】
事業概要	複合施設内の交流施設やオープンスペースを活用して滞留・交流の場を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：1分増加 当該事業は当初の計画どおりに進捗し、各スペースを活用した展示や集客・回遊イベントに官民連携して取り組んでいる。当該事業により居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成することで、来街者の平均滞在時間が1分増加することを見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を展開することで阿知3丁目エリア周辺のにぎわいを定着させ、倉敷駅北側の商業施設と連携して事業に取り組むことで南北間の回遊促進を図り、滞在時間の増加を目指す。

③. まちなか交流促進事業(交流促進イベント事業)(アートのまち倉敷実行委員会、倉敷市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	倉敷美観地区を中心に、芸術と食のコンテンツを融合させた周遊型のイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和6年度～令和7年度) [認定基本計画：都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和3年度～令和4年度)]
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：6.52分増加 事業は当初の計画どおりに進捗し、展示やスタンプラリー、マルシェなど、アートとスイーツを融合させたイベントを開催している。当該事業及び「④. まちなか交流促進事業(魅力情報デジタル発信事業)」により中心市街地内の回遊性が向上することで、来街者の平均滞在時間が6.52分増加することを見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を展開し、来街者の回遊を促進する。

いて

④. まちなか交流促進事業（魅力情報デジタル発信事業）（倉敷市）

事業実施期間	令和3年度～令和7年度【実施中】
事業概要	パソコンやスマートフォンから確認できるデジタルマップを作成し、作成したマップを活用して周遊型のイベントを開催する。。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(国土交通省)(令和3年度～令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：6.52分増加 事業は当初の計画どおりに進捗し、まち歩きイベントやワークショップの開催、マップを紹介するパンフレットの作成・配布等を行っている。当該事業及び「③. まちなか交流促進事業（交流促進イベント事業）」により中心市街地内の回遊性が向上することで、来街者の平均滞在時間が6.52分増加することを見込んでいる。
事業の今後について	継続して事業を展開し、来街者の回遊を促進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、滞在時間の延伸に繋がるソフト事業が多数展開されており、今後は数値が改善する見込みであるが、最新値が基準値と同水準まで減少している現時点においては、目標達成が見込まれない。昼から夜のイベントへと転換した「くらしき藤物語（ハートランド倉敷）」のように、状況に応じて事業内容を見直しながら、夜間イベントの充実やイベント同士の連携を図り、来街者の分散や長時間滞在、宿泊を促すことで、目標の達成を目指す。